

新年のご挨拶

(平成 29 年 一般社団法人情報サービス産業協会 新年賀詞交歓会より)

会長挨拶

一般社団法人 情報サービス産業協会
会長 横塚 裕志

明けましておめでとうございます。

本日は世耕経済産業大臣を始め経済産業省の幹部の皆様方、また多くの団体の代表の方々にもお越しいただいております。本当にありがとうございます

さて、2017 年がスタートしました。今年はどうなるのかということですが、間違いなく第 4 次産業革命の猛烈な嵐が世界中を吹き荒れるということです。

第 4 次産業革命は、ソフトウェアで革命を起こし、マーケットやビジネスを生んでいく大きな産業革命です。ソフトウェアとなれば、我々情報サービス産業の大いなる出番です。第 4 次産業革命は全ての産業が対象になるので、皆で力を合わせてソフトウェアでサポートし、日本の競争力をさらに上げていく使命を担っていきたいと思っています。

しかし、今までのビジネスのやりかたや働き方を我々自身が大きく改革していかなくは、第 4 次産業革命を推進することは全くできません。今年は大きく 2つのポイントでこの産業を変えていきたいと思っています。

一つは、世界に通用し世界で勝ち抜ける技術者をしっかり育成していくということです。サッカーと同じで一人一人の能力が高くないとワールドカップで優勝できません。一人一人の技術者を育成し世界レベルに高めていくことが、私たちの大変大きな使命だと思えます。デザイン思考などをしっかり勉強して、お客様に寄り添いながら新しいビジネスを一緒に創っていくエンジニ



ア・技術者から、クラウドネイティブと言われていますが、最近の新しいクラウドのマイクロサービスあるいは SaaS を使いながら新しいビジネスを作っていく新しい技術を持った技術者、あるいはまた世界の大きな波となっているサイバーセキュリティにしっかり対応できるような技術者など、いろいろな技術者が必要ですが、そういった世界レベルの技術者を育成していくことが我々の大きな使命だと思います。

二つ目は、我々のビジネスの仕方を変えなくてはならないということです。今までのような受託型の SI ビジネスはこれからシュリンクしていくことは間違いありませんし、SI のやり方では第 4 次産業革命はサポートできません。ソフトウェアの勝負、知恵の勝負になっていますので、いくら長時間働いたところで知恵の勝負に負けたらアウトです。しっかり休んで新しいアイデアを生み、新しいビジネスを生んでいくという仕事の仕方、新しいビジネスモデル、新しいサービスに我々が変わっていかなくては、第 4 次産業革命は支えていくことはできないと思います。いかに世界レベルの技術者を育成し、我々のビジネスモデルを変えていくか。第二の創業のフェーズに入るという心意気で第 4 次産業革命を支える新しいビジネスモデルを我々の会社それぞれで創っていく。こういうことを是非実現したいと考えます。そのために我々 JISA が皆さんをサポートしていきたいと考えていますので、是非今年もよろしくお願いします。

来賓挨拶

経済産業大臣

世耕 弘成

新年あけましておめでとうございます。本日は JISA の 賀詞交歓会ということで、このようにたくさんのお客様がお集まりのもと、盛大に開催されましたことを心からお祝い申し上げます。私も賀詞交歓会を回っていて十軒目くらいになりますが、どこも人出が多い。株価も上がっていますし、今年はいい雰囲気です。各業界とも新年を迎えられていると思います。



ソフトウェア業界の皆さんも、クラウドの問題ですとかユーザがパッケージの方に流れているなど、いろいろ変化のある時代ですが、一方で先ほど会長からお話のありましたように、これから第 4 次産業革命ということで、IoT にせよ自動運転にせよロボティクスにせよ AI にせよ、ソフトウェアなしでできることは何一つないわけですから、皆様方の業界への期待が本当に高まっていると思っています。

皆様のお仕事は本当に難しいと思っています。ユーザの言うとおりにやっているのは駄目で、無茶なことや「そんなことをやったら大変なことになる」ということをユーザがやりそうになったら、皆様方は「それは駄目ですよ」とたしなめなければなりません。本当に大変な業界だと思います。

これからサービス産業の生産性を上げていくことが大きなテーマになります。製造業の生産性も重要ですが、やはり日本が世界に比べて大きく遅れているのはサービス産業の生産性で、それを高めていくためには IT を使っていかなければなりません。皆様方には、単に唯々諾々と受託するだけではなく、それぞれの業界の生産性を上げるためにどういうふうにソフトウェアを使いこなしていけばいいのかを、時には厳しく提言するような業界であっていただきたいと思

います。

もう一つお願いしたいのは働き方改革です。先ほど役員の皆様は「ずいぶんましにはなっています」と言われましたが、まだ皆様の業界は 3k どころか 7k と言われるような、なかなか厳しい労働環境です。ぜひ長時間労働の是正や皆様自身の業界の生産性向上に取り組んでいただきたいと思います。ソフトウェア業界はテレワークが一番向いている業界だと思いますし、仕事の量や成果を定量的に計ることができる、もっとも働き方改革に向いている業界ではないかと思っています。ぜひ皆様方の業界が他業界に先駆けて働き方改革を進めていただければと思っています。ひたすら働いているだけではアイデアは出てきません。休んだり遊んだりする中から「こういうサービスがあるのではないか」というアイデアが出てくるのではないかと思います。ぜひ働き方改革を経営改革の一環として取り組んでいただければと思います。経済産業省も率先して取り組みます。私はすでにテレワークをやっています。答弁勉強はほとんど自宅でテレワークでやってから経産省にやって来ます。私の答弁勉強の時間は各大臣の中でもっとも短いです。1月20日から通常国会が始まりますが、答弁を作成するスタッフの側もテレワークで対応してもらいます。ソフト業界の方から聞いたのですが、いま企業のコールセンターは人工知能を使って問い合わせにさっと応えられるようになっている。お客さんからの質問に答えられるのなら、国会議員からの質問にも答えられるのではないかということで、国会の想定問答づくりに人工知能を入れるという実験も経済産業省は取り組みます。このように経済産業省は率先してソフトウェアを使って仕事のやり方を改革していくことに取り組んでいます。是非皆さまの業界とこれからも連携して、世の中を変え、日本の生産性を上げることにチャレンジしてまいりたいと思っています。皆様方の業界のバックアップ役として、しっかりとがんばってまいりますので、今年もよろしく申し上げます。

乾杯挨拶

独立行政法人 情報処理推進機構

理事長 富田 達夫

新年あけましておめでとうございます。今日は情報サービス産業協会の賀詞交歓会と言うことですが、我々情報処理推進機構と JISA 様とはイベント、セミナー、調査などで協力し合うということで、これまで非常に深い関係でお付き合いさせていただいておりました。会長や大臣からのお話にもありましたとおり、いま IT 業界は非常に追い風になっておりまして、これを期に私どもとの連



携がさらに強固なものになって、皆様とともにこの情報サービス産業を本当に強いものにしていきたいと思っています。

私は昨年 10 月の JISA Digital Masters Forum に出席させていただきました。ビッグデータ、IoT、AI が主役になってきていることは言うまでもありませんが、まだ全てが実際のビジネスにつながっているわけではないですし、課題もたくさんあります。確かに自動車もひとりで動き始めるようになるでしょうし、ドローンが宅配したり、あるいはフィンテック、ブロックチェーンがどんどん進んでいますし、農業も工場化・六次産業化してきている。そういうことが実証実験レベルではいろいろ起きてきている。あるいはビジネスとして小さいレベルで起きてきている。しかし、まだまだいろいろな課題を抱えています。先ほど会長も言われたように、人材も課題だと思っています。そういう課題を私どもと情報産業の中心である JISA 様が解決しながら、早くイノベーションを日本全体の中で起こしていかなければならないと思っています。

AI については、かなり人材が育ち始めています。いろいろな学校の先生とお話すると、AI を指向する学生がかなり増えてきたとのこと。これは非常

にうれしい話で、以前には情報処理を指向する人が減っていた時期がありましたが、AIを中心に少し増えてきました。ただ今後は、AIのエンジニアが日本だけでなく海外も含めたいろいろなところから高い給料で引っ張りだこになる時代が来ると思います。まさに先ほど大臣が言われたように、海外の研究者やエンジニアと同じような働き方の環境を作り、生産性を上げていかないと、どんどん良い人材を吸い取られていくという脅威もあると思っています。私たちの業界がグローバルに戦っていけるようにするためには、働き方改革は待ったなしの必須項目です。JISA様も人材育成や働き方改革の検討会を始められていますが、いろいろな形で協力し合って進めていけたらと思っています。

また、これだけソフトウェアが制御する時代になると、サイバーセキュリティは本当に怖い問題です。これこそ待ったなしで、今この時点でもいろいろなことが起きているのが実態です。しかも難しいのは、被害にあった人が隠す傾向にあり、なかなか大っぴらにできないということです。これを明らかにし、みんなにわかるようにして、その脅威から守っていかなければならない。攻撃者もAIを使い始めています。そういう意味では技術の戦いであり、制度の戦いであり、本当に産官学が協力してやっていかなければならないと思っています。2月8日にIPAはサイバーセキュリティシンポジウムを開催します。普段はなかなか聞けない内外の先生の話や実例の話がお聞きいただけますので、ここにお集まりの方々、さらに経営に携わっておられるの方々には、ぜひ聞いていただいて、サイバーセキュリティを経営問題としてとらえていただきたいと心から思っています。